

上野総合市民病院だより

◆フレイルと早期リハビリテーション



皆さんは「フレイル」という言葉を知っていますか？ 加齢による筋力の衰えや認知機能の低下などにより、要介護になる前段階の状態のことをいいます。

けがや病気で入院した患者さんやご家族に入院前の生活状況を尋ねると、「これまで一人で歩けていました」や「全部自分でできていました」という答えが返ってくる場合があります。しかし、その「できていました」の中には、いろいろなことをわずかな休憩だけで続けることができていた人もいれば、ひとつの活動を休憩しながらなんとかできていたと

いう人もいます。どちらも「自立」ではありませんが、日常生活に大きな違いがあります。フレイルのため体力に余裕がない場合には、けがや病気で数日寝込んでしまうだけで、起き上がることも、立ち上がることもできなくなることがあります。

このため、私たち理学療法士は、けがや病気の内容に加え、フレイルにより、入院前の生活に戻れない可能性がある患者さんに対して、看護師や社会福祉士と連携し、早期からリハビリテーション医療に取り組み、入院患者さんの社会復帰をめざしています。

(リハビリテーション課 運動器理学療法専門理学療法士 猪田茂生)



明日に向かって～差別をなくしていくために～

医療と人権 —保険年金課—

日本国憲法第25条第1項では、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」とあります。しかし、医療費や医療保険料の高騰による自己負担額の増加に加え、地方での病床数や医療従事者の減少、またマイナンバーカードの保険証利用に伴う医療分野での情報管理の複雑化などの要因から、医療を受けられない、または受診控えをするといった問題が増えています。

また、第25条第2項では、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」とあります。国や地方自治体は「健康で文化的な生活」を保障できるように努めなければなりません。社会保障費の財源であったり、医療費が年々増加していることなどの課題が多くある中で、国や地方自治体に

は、社会保障の増進や医療制度の整備・拡充に努めることで、これらの課題を早急に解決していくことが求められています。

誰でもどこでも質の高い医療を受ける権利が保障されることが、健康で文化的な生活に必要な不可欠であり、医療を受けられないことがあってはなりません。昨今の医療制度は、国民にとって複雑でわかりにくいのではないかと感じますが、行政として、皆さんの意見を反映し、医療制度の改善や丁寧な広報に努めることが重要だと考えています。

皆さんも健診を必ず受けるなど自身の健康管理に取り組みながら、医療制度への理解を深めることが、市民と行政がお互いにつながり、「健康で文化的な生活」を送れる一歩になるのではないのでしょうか。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀の歴史余話 43

青い目の人形「メリー」と「エリザベス」

昭和2(1927)年、アメリカで日本人移民に対する排斥運動が高まるなか、宣教師であるシドニー・ギューリックは、日米親善を目的に、友達同士のお使いとして「青い目の人形」約12,000体を日本全国の小学校などに贈りました。

青い目の人形が贈られた学校では、盛大な歓迎行事が行われました。伊賀市内でも歓迎の学芸会や、日米両国旗とともに日本人形や雛人形と一緒に並べた「人形祭り」などの行事が開催されました。

しかし、昭和16(1941)年に太平洋戦争が始まると、青い目の人形は「敵国人形」として処分命令が下され、多くの人形が失われました。

そうしたなか市内で、守り伝えられた人形が旧花垣小学校の「エリザベス」と旧河合小学校の「メリー」です。旧花垣小学校のエリザベスは、来日した時は全校児童が運動場に整列して出迎えたそうです。児童の代表が人形を受け取る式典があり、校長先生によるお話があったともいいます。旧河合小学校では、昭和2年5月5日にメリーを歓迎する人形祭りが行

われ、その後も、雛祭りに児童が家にある人形を持ち寄り、メリーとともに講堂に並べて祝いました。

旧河合小学校では、昭和63(1988)年に布で丁寧に包まれ、大きな木箱で保管されていたメリーが見つかりました。旧花垣小学校では講堂の屋根裏で見つかったようです。

戦争の影響が学校にある人形にまで及ぶ状況となるなか、友情の印であり、こどもたちが喜び迎え入れた人形が大切に守られたという事実は、平和の大切さとともに長く語り継がれるべき歴史といえます。

文化財課歴史資料係 ☎/FAX 41-2271



エリザベス
(花垣地区市民センター所蔵)



メリー
(阿山小学校所蔵)
(写真は、人形大使「ミス三重」より)



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト(製品)」、「プロフェッショナル(専門家)」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。



錦城護謄株式会社 上野工場

当社は『ゴム・土木・福祉』の3つの事業を展開し、そのひとつが社名の由来でもあるゴム製品の製造です。製品は多岐にわたる業界で活用されていて、電化製品のパッキンなど、生活の身近なところに存在しています。

土地事業では全国の交通インフラや土地造成を行っていて、「PVD工法*」という地盤改良工法の業界を牽引し続けています。大阪・関西万博の会場用地である夢洲では、PVD工法による地盤改良工事を担当しました。市内にある上野工場は、資材の製造と工事用機械のメンテナンスを行う、中核的な拠点です。

福祉関連事業では、視覚障がい者をはじめ、すべての人がスムーズに歩行するためのゴムマットである「歩導くんガイドウェイ」の製造・販売・設置をしていて、大阪・関西万博にも採用されています。

また、「KINJO JAPAN」というブランドを立ち上げ、まるでガラスのように見える、シリコンゴム製ガラスの製造・販売も行っています。



上野工場では、一般の人と接する機会はあまり多くありませんが、地域のイベントなどに、積極的に参加して伊賀市を盛り立てていける企業でありたいと思っています。機会がありましたら、ぜひお声がけください。



* PVD工法とは、プレファブリケイティッドバーチカルドレーン工法の頭文字の略で、粘性土の地盤に人工的な板状の透水体を打ち込み、地盤の中の水分を取り除くことにより地盤を安定させる工法です。

◆会社概要

【設立】昭和11年創業

(平成4年上野工場設立)

【従業員数】全社 280名

(上野工場 13名)

【所在地】伊賀市予野 3012-7

【連絡先】☎ 20-1857 FAX 20-1907

【事業概要】自社ブランド土木資材・製品の生産・販売、軟弱地盤改良の設計・施工・管理、建設機械等の特定自主検査



<https://www.kinjogomu.jp/>